

令和元年度 第2回 釧路市まち・ひと・しごと創生推進会議 議事録

日時:令和元年10月7日(月)

午後1時30分～午後3時00分

場所:釧路市役所 防災庁舎5階
災害対策本部室

1. 開会

・「釧路市まち・ひと・しごと創生推進会議 設置要綱」第6条第2項の規定により、
委員11名中7名出席につき、過半数の委員の出席があったため、当会議成立を確認。

2. 副市長あいさつ

3. 議事

(1) 人口関係データについて

・事務局より【資料1】「人口関係データ」をもとに説明

委員より説明内容について質問あり

<以下、質疑応答【◎…議長 ○…委員 ●…オブザーバー ■…釧路市】>

◎ 年齢階級別の人口移動について、去年も報告があったかと思うが、15歳～19歳の方が転入超過になっているが、大学で住民登録の手続きをされていて、その影響で、今まで住民票を移していない子たちが、移すようになったのが主な原因で、その他プラスで何か明るい材料があるとかそういうことはあるか。

■ 今のところそれ以外の原因というのは見いだせない状況である。

(2) 第1期総合戦略の検証について

・事務局より【資料2】「釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 基本目標の検証」、【資料3】「基本目標の施策体系と関連統計について」、【資料4】「基本目標ごとの KPIについて」、【資料5】「基本目標ごとの施策及び具体的事業の進捗について」をもとに基本目標ごとに説明

【基本目標1】について事務局から説明

◎ 数値目標で市内総生産額がこここのところ増加をしている。細かい資料を見ればわかると思うが、業種的に、この市内総生産額(GRP)を増やしている業種というのは何かわかるか。この要因とは何か。

■ 先ほどKPIの中でもご説明しているが、食料品製造業粗付加価値額について、資料4の1ページ目の左下の方に食料品粗付加価値額のこれまでの推移が載っている。こちらを見ると、26年から27年にかけてすごく数字が伸びている。それが市内総生産額にも少なからず影響していると考えている。

【基本目標2】について事務局から説明

- ◎ 基本目標の転入者数が平成23年が6,700人だったものが、6,500人、6,300人になり、平成27年に若干増えて、また減って今横ばいという形になっているが、転入者が減ってきた理由というのが、支店が帯広の方に集約されたとか、あるいは転勤のある大手企業の事務所の従業員数が減ってきているとか、あるいは釧路に来て開業する人が少なくなってきたとか、転入が減っている、減ってきて横ばいになっている要因とかは、何か押さえているか。
- 横ばいになってきている原因につきましては、やはり釧路市で取り組んできている、「域内循環」の取り組みだとか、「外から稼ぐ」取り組みというところが功を奏しているのではないかと考えているが、なかなか全ての要因を分析できているわけではない。
- 経済センサスを見ても、事業所数が下がってきているということもあるので、そういったものと全体的に連動しているところはあると思う。より詳しい情報については、統計担当とも連携しながら、引き続き探っていきたいと考えている。
- 今後の課題だとか、市内外から就学した学生の釧路への定着を図るなどの活性化と、出ていったものの帰って来たい希望を叶えていくという部分で、そういった部分の統計みたいなものは取り始めていれば、情報を教えていただきたい。どのくらい他方から公立大学に入学して、釧路に就職しているという実績が、実際に増えているのか。具体的なその活性化を目指すというのが数値化になっているのか。
- 先ほどの人口関係データのところでお示した⑦と⑧で、こちらは高等教育機関の卒業生の動向ということで、高等教育機関というのが、北海道教育大学と公立大学と高専と短大。そちらの卒業生がどちらに行ったのか、道内なのか道外なのか、市内なのかというところお示ししたデータであり、そのうち2017年度は750人の卒業生のうち146人が市内に残っているという形になっている。
- もともと地元の人なのか、他方から釧路に来て釧路に残ったのか。
- そこまでは分析できていない。
- 釧路への定着という部分からすると、釧路にいて釧路にそのまま就職するというのは割と一般的な感じがするが、大学で釧路に来て釧路が好きで残ってくれている人を増やしていくということも大事だと思う。

【基本目標3】について事務局から説明

【基本目標4】について事務局から説明

- この業界を俯瞰して見ていて、釧路市内は慢性的な介護従事者が不足していて、新たな新規事業者が進出する余地がないというふうに、極めて厳しい状況にあると、私自身も個人的に認識しているが、今のご説明を聞いてもそうだが、釧路市の見解はいかがか。
- 私どもも介護従事者については、不足しているということもあって、非常に厳しい状況であるということは認識をしているところである。介護高齢課でも先ほどご紹介した、介護人材確保育成支援事業、そして有資格者で介護現場から一度離れた人の復職を支援するという、介護潜在人材支援事業など、

様々実施して、介護人材の確保に努めているところではあるが、なかなか厳しい状況である。

【基本目標5】について事務局から説明

- ◎ 数字の確認だが、空家等特別措置法に基づいて除却した件数ということか。
- 「空家等対策計画」を策定し、その中で、不良空家の除却というところが課題ということになっているので、それに基づいて釧路市で補助制度を設けて、除却の促進を行っている。
- ◎ その結果がこの数字になっているのか。
- この68件全てが補助制度を活用したものでないが、その件数もこの中に入っている。
- ◎ 不良空家として登録されていて、届けがあるなしに関わらず、指導に従って除却をすればこの数字に加わるということか。
- その通りである。また、不良空家の補助制度による除却については、平成30年で10件となっている。

(3) 第2期総合戦略の施策体系案について

・事務局より【資料6】「第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 施策体系案」をもとに説明

- まず1の①の(ア)水産業についてだが、今は育てる漁業というのが重要になってくると思う。
そして1の③で観光地域づくりだが、(イ)のところ、観光コンテンツを作るのは大胆さが必要だと思う。いかに自然を見せるか、阿寒がやっているが、釧路市内の他の地域でもやる必要があるのではないかと。
それから2ページ目に入って、⑥の交流人口・関係人口のところ、(ウ)の交流人口の受入拡大のところだが、大型クルーズ船が寄港する釧路港とあるが、釧路港の周辺地域の開発というのが、要はお金を落としていただくためには必要だと思う。
- 3 ページ目の2の人材育成・人材確保のところ、要は釧路で生まれた子どもたちに、釧路で将来的に働いてもらうためには、極端な話をすると、小学生・中学生の頃から職業教育、地元でこういう良い企業があるということを知っていただく必要があると思っている。色々な動きをされているが、さらに加速する必要があるし、職業に対する親の教育、子どもが親の話を聞いて決めているところがあり、東京に行けば夢があるとか、札幌市役所に就職すればいいとか、そういうことじゃないような気がしている。労働人口なんか札幌は激減している。釧路と同じように減っているところで、札幌市に勤めたところでどうなのか、はたして親の感覚と合っていないような気がしている。親御さんへの教育も含めて職業に対する地元の良さというのを親にも理解してもらう必要があると思っている。それから家族も田舎じゃ嫌だ、釧路が田舎だと言っているわけではなく、都会に出るということが全てではないということがすごく大事なことだと思っている。
- 安心して子どもを生み育てる環境づくりというところが、多分大胆な財政支援というのが必要だと思っている。最後の6ページで、ひがし北海道の中核都市としての拠点性の向上ということで、釧路の経済を見たときに、この地域の今現在の三大産業は、農林酪農業と港湾物流業と観光だと思っている。その中できちんと物流拠点の機能強化、この物流というのは釧路の相当な強みなので、確かにこの地域を活性化させるということは重要であるが、食料基地という側面もすごくあると思う地域である。そういった意味でも大切にしたいと思っている。

■ いただいたご意見は、しっかり庁内で共有して、次に具体的にお示しできる部分については、しっかりとお示ししていきたいと思う。

○ 個人的には6ページ目の最後に物流拠点がきたのががっかりしている。先に出るから重点だという意味ではないが、最後に出てくるのがちょっとがっかりした。

この文章とかに関わってくる内容ではないと思うが、高付加価値化による魅力ある産品づくりを地域で取り組まれているが、個々はすごく一生懸命されているが、全体を通しての大型プロモーションとか取り組みというのがあまり見られない。たまたまチーズ関係で言えば、チーズの小さな生産工房があつて、それぞれが特色のあるすごくいいチーズを作っていて、それぞれネットとかを通じて知名度を上げていって、東京で物産展とかに個々に出ていく。しかしそれらが釧路地域とかひがし北海道地域みたいな形で、一つとなって大きくプロモーションをかけるというようなことがないそうで、個々だということである。工房自体が小さいので、そういう取り組みまでいっていないと聞いた。そういうことを考えると魅力のある分野なのにもったいない。という部分ではこれこそが市とか、物産関係の人がサポートしてあげればいいのか。個々に小さく活動している人たちを一つにまとめるというのが大事だと思う。

釧路のコンテンツで、夏バージョンがあつて、今回冬バージョンもあつて拝見したが、素晴らしい景色であった。これで思うのは、阿寒には泊まる人が増えるとか、川湯には増えると思うが、市内はどうなるんだみたいな気持ちが正直あつて、市内の良いところを集めるようなコンテンツもやはり作っていただきたい。旧釧路の魅力というものもあると思う。古い部分、南大通界限だとか、幣舞橋とか、隠れたコンテンツを市内で発掘してPRしてもらいたいと感じている。

3ページ目の人材育成・人材確保は、私もわからないながらもまち・ひと・しごとの会議に出て、子どもが釧路を好きになってくれることが、将来釧路に勤めてくれる人になるということ、これぐらいしか言えることはないと思つてずっと言ってきたが、本当にその通りだと思う。企業の方も、これまでは卒業生とか来年就職するような人たちに対してのプログラムをやっていたが、だんだんそれだけではこれから釧路に帰ってきてくれる、釧路に勤めてくれる人がどんどん激減していくのが見えているので、企業の方も小学生などの職業体験とか見学とか、そういったものに目を向け始めているので、ぜひそういうところをくみ取って、釧路に対する郷土愛の醸成をしていただきたいと思う。企業は本当に10年後のことを考えて、すごく焦りを感じるぐらい危機感を持っているので、全市を上げて取り組んでももらいたいと思う。

最後に、新規参入してきた、誘致してきた企業に対するインセンティブというのは、よく聞くが、既存立地企業がインセンティブをもらうというのはなかなかそういうメニューがないので、新規設備投資をしないと、そういうのがもらえないとか、そういうことじゃなく、お金がかからないけれども新しい何かをやりたいとか、そういうことに対する支援だとか、そういったことも考えていただきたいということと、物流機能の釧路港がやはり目に見えない釧路の産業基盤を支えているということ、これまで縁の下で力持ちで、全然知らなくてもいいと、そこを利用してくれる工場が、便利に活用してくれればいいと思つていたが、ここにきて港湾で働くということは3Kだということで、本当に従事者が少なくなっている。介護従事者もそうかもしれないが、港湾従事者も大変危機感を持っていて、物流というものがいかにひがし北海道で釧路港が大事なのかということ。そして釧路港に市も設備投資をしていただいているし、今後もしもいただいて、より良い物流機能を維持していくという部分でこれからの人材に、そういったものも含めて、物流拠点がいかに重要かということPRしていくような施策というものを期待したいと思う。

■ 地場産品の地元の取り組みの部分だとか、産業振興部の方と関係する部分はあろうかと思うので、ちなみに

私どもの課の担当でいえばふるさと納税を担当しているが、返礼品でk-Bizと一緒に開発した商品を、ふるさと納税の返礼品で掲載したり、そういう情報発信にも使っていくという取り組みもしているところである。産業振興部ともよく連携しながら、どういったことができるのかということはしっかり考えていきたい。

また物流の関係もしっかり取り組んでいきたい。

- 個人的な感想になるが、1の③の世界一級の観光地域づくりの(イ)の部分、滞在型観光地域づくりというのが、やはり1日来てくれたぐらいでは釧路の魅力はなかなか伝わりきれないと思っていて、なるべくゆっくり滞在して色々知ってもらいたいということがあるので、そのためのコンテンツとかプログラムというのももちろん大事になってくるが、滞在してもらうためには泊まる場所とういのが必ず必要で、今北大通界限はホテルが色々できているが、最近少し個性的なゲストハウスだとかいうのもできていて、もっと特色のある宿泊施設というのがたくさんできていいのかなと思う。色々な視点でセブなどところに泊まりたいという人はそういうところとか、若者がとにかく安く泊まって、地元の人と触れ合いたいとか、そういう宿泊をもっと選べる、色々なタイプの宿泊施設があると、ここに泊まりたいから来るという流れもあるといいのではないかと思う。阿寒で若い人がゲストハウスを立ちあげたりしているが、市内、それこそ北大通界限の中心部でもそういう若い人がやりやすいような補助なのか、そういうのがあってもいいのではないかと思う。

また、滞在型ということでこの間も夜の企画で、JCの皆さんが噴水ショーをやっていたかと思うが、ああいうのもすごく面白い企画だと思ったので、これを見るために夜ここに泊まるという流れにつながると思うので、ああいう市としてもどんどん応援できるような体制が取れたらいいと思う。楽しいアイデアをお持ちの方もたくさんいるのでそういうのがどんどん実現していけばいいと感じた。

あと個人的に子育てをしながら仕事をしているが、子育てをしやすい環境というところでは、一番何が困るかという、日中は保育園にいつも面倒を見てもらっているが、急な発熱とか、そういうときのサポートというのが、実家が釧路にないと、急に頼る場所というのがないというのが一番困る。市でも病後児保育とか事業をやっているかと思うが、正直まだ利用したことがなく、何となく利用しづらそうだと、第一印象で感じて、もう少し気軽に、なかなか人もいないので難しいとは思いますが、子どもは熱があっても元気だったりするので、そういう時に見てもらえるようなところがもう少し充実してきたら、すごく個人的にはありがたいと感じた。

- ただ今のご意見も庁内で共有させていただいて、検討させていただきたいと思う。

- 普段女性の活躍という分野で色々活動しているので、その視点でお話をさせていただきたいと思う。例えば働きながら子育てしやすい環境の充実だとか、女性の活躍推進だとか、地域の未来を担う子ども・若者の人材育成とかいう文言があるが、これは最初からまち・ひと・しごとときに女性の活躍というのは掲載されていて、その事業をやらせていただいている身としては、そこへの予算が本当に少ないということを感じるところである。市ではほとんどやっていないのと、民間企業の本当に少々の企業が、そこではお金を生み出せないで、結局行政の予算の中でやらせていただくところであるが、これはすごく重要な部分だということを感じている。例えば女性の就業だけでなく、起業にもつながっていく相談が最近とても多いが、k-Bizに予算が投じられているのはよくわかるが、k-Bizは男性所帯であって、そこに女性が行くというのはなかなかハードルが高く、一事業主が外貨を稼ぎながらそこに人を連れて来るといふか、そういう努力をしているということを市はしっかりわかっていたらいい。

また時代が少しずつ変わってきていて、女性だけに限らず人の価値観というか考え方が少しずつ変わってき

ている。10年前はセミナーでよかったものが、今はもう少し一人一人に寄り添わないとなかなか難しいということ、例えば私もセミナーとか講座とかをやるが、少し前までは新聞告知だとか、チラシなどで集客ができていたが、今はSNSになっている。それはこの1、2年ですごく変わってきていて、あとは口コミである。子育て中のお母さんたちは年齢的に若いので、特に転勤族が釧路は多く、転勤族のお母さんたちの居場所がない。そうするとSNSで探す。その情報交換とかをする場を提供しているのが一個人である。その人が自費でやっているの、それを応援したいが、動く予算が全然回ってこないという現状がある。最初から女性活躍を謳っているのであれば、そこに何らかの形でもっと動きやすいような流れができないか。

また、まだまだ子供たちの考え方に、母親の考え方が影響を与えていると思っていて、やはり地域の女性教育というのが子どもの教育につながるのではないかと考えている。

- 予算の話になると、これまでもまち・ひと・しごと総合戦略事業というのは、市にとっても重点的に投資すべき事業ということで、一般財源相当は真に必要な経費をかけるべきという整理をしているが、その時々財政状況に応じて予算措置をしていくものであり、今お話しいただいた部分も、それが重点化を進めるべきポイントだということで、その辺りは所管課とも共有しながら予算要求のあり方も含めて検討していきたいと思っている。

- ◎ これを見させていただいて気付いたところで、定住と移住の話と、地域経済を支える中小企業・小規模事業者の支援の話と、今体系としては別々になっているが、最初に説明があったように、転入者数が少なくなってきたのは事業所数が少なくなっているというのが背景になっているとすると、むしろ釧路は起業をする人とか、移住定住の部分とかをリンクして考える方が良いのではないか。

例えば観光のインバウンドのところ、国立公園満喫プロジェクトという形で、チャンスがあれば人が動くだろうというところがあって、まさに先ほどお話があったゲストハウスなどができているが、起業の部分と移住定住が別々で、ただ就職先を紹介するというよりも、むしろ釧路出身で東京で成功したような人が戻ってきて、釧路でチャンスを得て新しいビジネスをしてみたいとか、釧路のポテンシャルを生かしたいという人に対し、それをサポートするときに、起業と移住定住のところはリンクするような形のプログラムがあるといいのではないかと考えていて、具体的には、先に釧路に来た人がいて、リゾート地とかはそうかもしれないが、IT系の人たちがここがいいからという形で友達を連れて来るとか、移住定住のところと、起業でそこに来た人のネットワークで、そのネットワークが外から引っ張ってくるという、その辺りがリンクしたような形で事業が進められるといいのではないかと思う。

2つ目は、物流のところ先ほども話があったが、釧路の港湾の話はこれから非常に期待される場所であり、今、北極海航路というのが、北海道がそのポテンシャルの中で、これから重要になるということで、苫小牧は先進的にやられているが、釧路の場合北極海航路はどうなのか、もともと港湾で育ってきたところがあるので、北極海航路はすぐというわけにはいかないかもしれないが、大きく夢を持てるというところがあるのではないか。

3つ目は先ほど話の中でも、釧路のブランド化というところで、移住定住にもつながるところであるが、個別に頑張っている人たちが一堂に会するようなところがない。つながりが薄いようなところがあって、頑張っている人は個人的に頑張っている印象がある。頑張っている人をつなげて情報発信できるような、最近だとゲストハウスのような、そこに若い人がたむろしているような話とか、アート系の人が入ってきたとか、色々あると思う。そういう頑張っている人たちをつなげて、ブランド化して発信できるような、抽象的な話かもしれないが、そう

というような論点もあっていいのではないかと考えている。

- 施策の並びについては基本構想とぶつけながら整理している部分もあるので、ご指摘のとおり事業を実際に組む時には、有機的に効果もたらされるようなことを意識して、構築していくべきだと思っている。物流機能の部分も基本構想との表現とかその辺りも確認していきたいと思っている。個々に頑張っている方は、みんながどんな人が頑張っているということ、たくさんの方がわかっているということは大事だと思うので、そういう情報の発信や共有なども意識していくことが大事だと思う。しっかり考えていきたい。
- ◎ それでは本日は以上ということで、進行を事務局にお返しする。

6. 閉会

(了)